

発表タイトル	岩手県一関市千厩町奥玉地区における白藤伝説の調査報告
発表者所属名	日本歴史研究専攻
発表者氏名	佐藤 優 (さとう まさる/masaru-sato@msc.biglobe.ne.jp)

調査と本報告の目的	2. 白藤伝説の伝承実態
------------------	---------------------

報告者の研究テーマは、義経とその主従に関する伝説と縁起の民俗学的研究である。岩手県一関市の事例については、2010年に一関市室根町の皆鶴姫伝説について調査をおこなっている（成果の一部については、『伝承文学研究』第61号（伝承文学研究会2012年）に掲載させていただいた。）。その後、当該地域では、義経及びその主従の伝説が数多く報告されていることがわかった（『東磐史学』第30号 東磐史学会 2005年 pp.35-47）。そこで今回は、一関市千厩町における義経伝説の伝承実態の把握と史資料収集を目的に調査をおこなった。本報告では、調査成果のうち千厩町奥玉地区伝わる白藤伝説を取り上げ、千厩地域における伝説の認識及びその受容のされ方について考えてみたい。

1. 調査地の位置

【地図1】岩手県全図



・2005年に東磐井郡（大東町・室根村・千厩町・川崎村・東山町）が一関市になる。2011年に藤沢町が一関市となり、東磐井郡はなくなった。

・場所：一関市千厩町奥玉

【写真1】義経伝説を持つ白藤（2012年8月24日撮影）



・伝説の概略

（前略）ある時、義経主従は、気仙沼に行く途中、（中略）突然義経の白馬が倒れ亡くなった。（中略）丁寧に亡骸を葬り、来る途中、相川の五輪峠で藤の枝を折って、使っていた鞭に塚を立て、弔いをし、その場を去った。いつの日か根が付き（中略）白藤を咲かせるようになった。（後略）

【写真2】奥玉地区のS・H家に伝わる歌舞伎台本（『義経千本桜』・2012年8月25日撮影）



・奥玉の村社は、桜森神社である。そこで村芝居が例大祭（祭礼日＝旧暦9月16日、現在はそれに近い10月におこなわれる）の時期に上演された（昭和23年まで）。話者＝S・S氏（昭和10年生）（2012年8月25・27日調査）

↓

村の氏神の祭で、義経が登場する芝居が演じられていた。義経の芝居が伝説を再認識する契機となった可能性がある。

さらに、この白藤は大正11年（1922）に天然記念物として認定された（『史蹟名勝天然記念物台帳』（天第2号））。その根拠として、『台帳』には伝説が付記されている。

↓

近代における伝説の受容及び伝説が歴史として機能している事例として注目される。